
日本語・韓国語教育における漢語動詞の研究

高木南欧子／尹 亭仁

本研究は、漢語の中でも特に漢語動詞に焦点をあて、日本語・韓国語両言語の語学教材における現状を調査し、母語干渉について考察を行う。最終的には、この結果を日本語教育・韓国語教育の現場へ還元することを目的としている。

2016年度は、前年度に収集したテキストから

漢語を抽出し、提出順序、例文、指導書の記述の整理作業を進めている。教育現場での利用を念頭においていることから、頻度・重要度を見るため、日本語では『日本語能力試験出題基準』（旧日本語能力試験に対応した基準）を参照、分類を行っている。『日本語能力試験出題基準』に1級、2

級とも共通して分類されているものは、頻度・重要度が高いと判断する。韓国語においては、等級別に語彙が分類されている『등급별 국어교육용 어휘』(等級別国語教育用語彙)を用いてレベル別の分類を行っている。双方のリストを照合し、一方のリストにはあるが一方のリストにないもの

を抽出し、頻度・提出順序、例文などから、教育現場で指導すべき語彙リストを作成する。本研究の成果は、将来的に、教員が指導上注意すべき課題として認識するための利用と、学習者自身が参考とするための利用を目指す予定である。

